

[道 徳]

道徳教育の推進と改善に向けた「道徳教育推進教師」のあり方を探る実践的研究

池田 利充*

1 研究の背景と主題設定の理由

社会の激しい変革やいじめ問題の多発などを背景に、学習指導要領が一部改訂された。その目玉は「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)である。道徳科では、これまで以上に道徳授業の質的な充実を図り、道徳科が道徳教育の真の要としての機能を果たし、子どもたちのよりよく生きるための基盤となる確かな道徳性が養われることを目指している。

これまでの新たな枠組みによる道徳の教科化をめぐる一連の審議等の中で、中央教育審議会(以下、中教審)は、学校における道徳教育の充実に向け、学校全体の協力体制の下、計画作りの促進や、指導方法そして指導体制等に関する研究に総合的に取り組むことを施策とし答申を出した¹⁾。これは、要である道徳の時間の重要性を指摘する以外に、実態に応じた道徳指導や、道徳授業と他教科等を関連させながら、道徳的価値を重点化する実践が十分ではないという背景がある。

そこで、重要な役割を果たすのが2008年の学習指導要領で新設された道徳教育推進リーダーとしての道徳教育推進教師である。道徳教育推進教師は、学校全体の道徳教育を推進する立場である。また、連携や系統的横断的な道徳授業の改善に向けた教職員の動きを調整したり、教職員や組織の取組を支援したりする立場でもある。中教審の答申では、各校の道徳教育推進教師による研修計画の充実や授業研究の活性化により、教職員の指導力を向上させるようさらなる道徳教育のリーダーとしての力量が問われている。宮地(2010)²⁾は、道徳教育マネジメント推進のため、道徳教育推進教師の役割を推進、調整、支援の3つの観点で教職員や校内組織に関わった実践研究を報告している。道徳教育推進教師の役割とは、道徳教育のファシリテーターのみならず、コーディネーターやアドバイザー、サポーターといった多様な役割が求められているのである。このように考えると、道徳科の実施に向け、これまで以上に道徳教育推進教師の役割が重要になることは間違いない。

しかし一方で、『学習指導要領解説(道徳編)』³⁾には道徳教育推進教師の役割が示されているものの、学校現場では具体的な任務内容が共有化されておらず、一体的な道徳教育推進体制も明確でないのが実態である。また、道徳教育推進教師としての先行実践や取組事例は極めて少ないことが言える。さらに道徳教育推進教師は教職員の道徳の授業力向上のために働きかける必要があるが、各教職員のキャリアや能力は様々で、全ての教職員に応じた指導を行うことは難しいことが言える。

このような背景や実態から、道徳教育推進教師が推進や調整、支援の3つの観点で道徳教育と具体的に関わることで、道徳教育推進教師のあり方を探り、道徳教育推進体制の改善・充実を図ることができると考え、本主題を設定した。

2 研究の目的

本研究では、道徳教育の推進や改善に向けた具体的な手立てや取組から、道徳教育推進リーダーとしての道徳教育推進教師のあり方を多面的に探ることを目的とする。

3 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

- ①道徳性を育む教育活動の見直しと道徳授業との関連付けにおける道徳教育推進教師の役割
- ②自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める授業づくりにおける道徳教育推進教師の役割
- ③家庭・地域との連携による一貫した道徳教育における道徳教育推進教師の役割

* 糸魚川市立能生小学校

(2) 研究の方法

「道德教育推進教師」の役割を整理するために、まず、学習指導要領解説（道德編）に示されている道德教育推進教師の役割（8つの事柄）を体制整備と授業改善、連携の3つの役割に整理する。本研究ではア、イ、キを体制整備（研究の内容①）、ウ、エ、クを授業改善（研究の内容②）、オとカを連携（研究の内容③）とした。

次に、道德教育推進教師の具体的な手立てを作り出すために、整理した道德教育推進教師の3つの役割と、校内研究と絡めた推進・調整・支援の3つの観点によるマトリクス表を作成した（表2）。これら具体的な手立てや取組の成果と課題を明らかにしていくことで、道德教育推進教師のあり方を多面的に探ることとする。

(3) 研究の構想

当校の研究主題「自らの判断により、進んで道徳的実践ができる子どもの育成—自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習の工夫—」と絡め、以下にマトリクス表による具体化した取組を年間研究計画（表3）として作成し、見直しをもつことにした。

3 取組の実際

具体的な取組を前に、道德教育推進体制（指導・協力体制）の整備と共有を図った。まず、校長のリーダーシップの下に学校全体の道德教育の充実を図ることを目的とした推進・協力体制について教職員で共通理解を図った。また、授業づくりのサポート体制について、管理職及び教務主任と連携しながら、既存の組織を基に、各校内組織の特性を踏まえ、機能を生かすつ

表1 道德教育推進教師の役割として考えられる事柄

ア	道德教育の指導計画の作成に関する事柄
イ	全教育活動における道德教育の推進、充実に関する事柄
ウ	道德の時間の充実と指導体制に関する事柄
エ	道德用教材の整備・充実・活用に関する事柄
オ	道德教育の情報提供や情報交換に関する事柄
カ	授業の公開など家庭や地域社会との連携に関する事柄
キ	道德教育の研修の充実に関する事柄
ク	道德教育における評価に関する事柄

文部科学省『小学校学習指導要領解説 道德編（2008）』

表2 道德教育推進教師の3観点による主なかわり方（マトリクス表）

	推進	調整	支援
体制整備	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態から重点化した内容項目に基づく諸計画作成の推進…道德教育全体計画及び各学年道德教育年間計画の見直しと改善 各校内組織での取組の推進…道德教育推進委員会（研究推進委員会）体制の明確化、道徳的実践の場としての特別活動の見直し、心シート活用と心ファイルへの蓄積提案（6年間） 	<ul style="list-style-type: none"> 校内組織で話し合う内容（道徳的課題にかかわる）の調整及び各校内組織での意見調整…道德教育推進会議と職員研修の充実 諸計画原案づくりに対する各校内組織での意見調整…道德教育推進会議と職員研修の充実 各行事等の担当との道德教育推進に向けた調整と提案 	<ul style="list-style-type: none"> 諸計画の原案づくりの支援（具体的な取組例の提案）…共通シート提案と、諸計画や実践例の発信 児童実態把握のための資料作成及び情報共有のための支援…HUMANⅢ（新道徳性検査）の実施と分析、心シート及び心ファイル準備、職員研修による場の設定
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくり及び授業改善の推進…授業研究（授業公開）及び職員研修の充実（授業実践報告会）、外部講師招聘（授業づくり研修）、研推だより発行 課題共有による教職員の道德教育への意識向上の推進…授業づくり3チームの取組、外部講師の招聘（「道徳科」研修） 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の意見交換における連絡調整…職員研修による場の設定、研推だより発行、校内LANを活用した回覧板の活用 資料や教材の共有化（引継ぎ）を図るための連絡調整 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の授業づくりへの意欲向上のための支援 教材の蓄積と提供 道徳講座受講内容と外部講師からの情報の伝達
連携	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業の推進…道德授業参観日、フリ一参観日等の道德授業公開 道徳的な話題づくりの推進員…道德懇談会の実施 保護者や地域による児童への感化…子どもの姿を道徳的視点で見える保護者アンケート（行事・学期末）の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 道德教育にかかわる学校と家庭との連絡調整…教務と連携した配付文書及び便り等での連絡調整 特別活動における児童の道徳性を見取り…道徳的視点で見えるアンケートの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 授業実践例の紹介など教職員及び家庭への情報提供…学級便り（学校便り）等での情報発信、掲示物

◎重点取組

表3 マトリクス表をさらに具体化した「年間研究計画」

月	①道徳性を育む教育活動の見直しと道德授業との関連付け			②自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習の工夫		③家庭・地域との連携による一貫した道德教育の充実	
	実態調査	指導計画・道德学習プラン	特別活動の見直し	研究授業	研修会・協議会等	授業参観・懇談会 学校だより・学級通信	あいさつ運動 フウセンカズラ見守り隊活動
4月		全体計画の見直し提案、年間指導計画、わかしお道德学習プラン作成提案	縦割り班に名前を付けようプロジェクト結成		企画委員会 職員会議 ※研究計画提案	学年懇談会 PTA諸会での説明	あいさつ朝会 あいさつ強調デー
5月	新道徳性検査 (HUMANⅢ)	※作成メー各学年年間指導計画・わかしお道德学習プラン共有	縦割り班名募集 縦割り班名「わかしおフレンズ」発表(大運動会)		第1回職員研修(各学年年間指導計画・わかしお道德学習プラン共有) 第2回職員研修(校内研究共有)	フウセンカズラ栽培(全校)	同伴登校 あいさつ強調デー フウセンカズラ見守り隊開始式
6月	新道徳性検査(HUMANⅢ)実態分析 ※学級経営及び授業構想へ		代表委員会「弁天浜へGo!」提案わかしおフレンズ相談タイム ◆重点行事①「弁天浜へGo!」メッセージ交換	指導案検討会(1年) 第1回授業研究(1年) 指導案検討会(3年)	協議会(1年)	フリー参観 道德授業公開 地域後援会での説明 民生委員との懇談会における説明	同伴登校 あいさつ推進会議 見守り隊発会式 あいさつ強調デー あいさつ強調週間
7月	ハイパーQU			第2回授業研究(3年)	協議会(3年) 第3回職員研修(1学期の評価)	学級懇談会	同伴登校 あいさつ強調デー 見守り隊リーダー会議
8月 <small>夏休み</small>	ハイパーQU実態分析(学級経営へ)	年間指導計画見直しわかしお道德学習プラン(2学期)作成		指導案検討会(6年)	第4回職員研修「道徳科」に向けた伝達会(文科省指定講座受講より)、研究発表会の3授業構想発表	フウセンカズラ見守り隊(常時活動:5・6年)	
9月			◇集団活動(同年齢活動)がんばり歩こう会 メッセージ交換	第3回授業研究(6年) 指導案検討会(5年)	第5回職員研修(外部講師による授業づくり演習) チーム研修(Ⅱ期わかしお道德学習プランの検討)、協議会(6年)	道德授業公開 道徳懇談会 ※地域の方も参加	同伴登校 あいさつ強調デー あいさつ強調月間
10月			代表委員会「チャレンジランキングフェスティバル」提案わかしおフレンズ打ち合わせ会及び準備打ち合わせ	指導案検討会(2年) 指導案検討会(4年) 第5回授業研究(2年)	第6回職員研修(3授業構想検討) ※チーム研修 協議会(5年) 第7回職員研修(3授業構想発表会) 協議会(2年) 第8回職員研修(3授業指導案検討会)	チームごとにその都度、指導案検討会を設定。 →研推へ経過報告(授業者記録シート)	同伴登校 あいさつ強調デー あいさつ集会 ※海洋高校との交流
11月			打ち合わせ ◆重点行事②「チャレンジランキング」 メッセージ交換	第6回授業研究(4年) 研究発表会 ※3授業公開(1年・3年・6年)	協議会(4年) 協議会・研究発表・講演会など	個別懇談① 個別懇談②	同伴登校 見守り隊リーダー会議 あいさつ強調デー あいさつ運動推進会議
12月	新道徳性検査(2回目) ハイパーQU(2回目)	年間指導計画見直しわかしお道德学習プラン(3学期)作成		授業研究予備日	第9回職員研修(2学期実践振り返り)	個別懇談③	見守り隊交流会(5・6年) 同伴登校 あいさつ強調デー
1月			代表委員会「大なわ大会」提案わかしおフレンズ練習 ◆重点行事③「大なわ大会」 メッセージ交換	第7回授業研究(特支)校内研究集録作成	協議会(特支学級) 第10回職員研修 (教育課程伝達会・研修のまとめ) 第11回職員研修(実践のまとめ共有) 第12回職員研修(師範授業) 第13回職員研修(3学期振り返り、1年間の成果と課題)	民生委員との懇談会における説明 学習参観	同伴登校 あいさつ強調デー 同伴登校 見守り隊リーダー会議 同伴登校 あいさつ強調デー
2月						学年末PTA	
3月		年間指導計画、わかしお道德学習プラン 評価・振り返り					

ながりを図1のように考えた。道徳教育推進部が核となり、体験活動と関連付けた道徳授業、そして家庭や地域との連携体制を明確にした。後に述べる授業づくりでは、全職員を3つにチーム化し、低学年と中学年、高学年の授業サポート体制を整えた。

このように道徳教育推進教師が中心となり道徳教育を推進し、方向性を調整し、取組を支援する3つの観点で機能的な推進・協力体制を整備することで、全教職員の意識が高まり、学校全体の道徳教育も活性化すると考えた。さらに、道徳教育推進教師の役割も具体化するものと考えた。

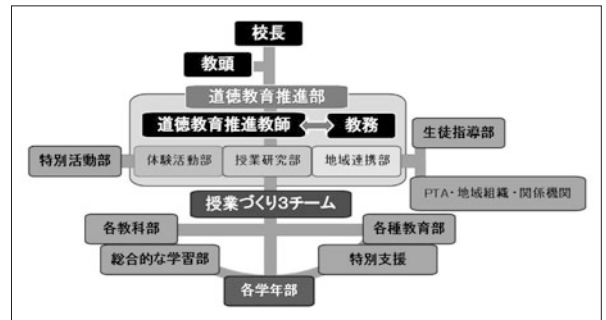


図1 当校の道徳教育推進体制（協力体制）

(1) 道徳性を育む教育活動の見直しと道徳授業との関連付けにおける道徳教育推進教師の役割

① 道徳教育全体計画と各学年道徳教育年間計画（別葉1）の改善と工夫

まず、道徳教育全体計画では3つの改善と工夫を行った。1つ目は、校長のリーダーシップの下、当校の重点内容項目「親切・思いやり」を明確にした。その目的は、学校の目指す子どもの姿を明確にし、具体的な道徳指導を行うことである。2つ目は、重点内容項目を柱に、教育活動全体を通じた道徳教育の相互の関連性を明確にするため、各教科や特別活動等で行うべき道徳教育を道徳科の内容との関連でとらえ、それぞれ道徳教育の指導方針を示したことである。3つ目は、道徳科が学校教育全体の道徳教育の要としての役割を果たすべく計画の中心に位置付け、各学年に応じた道徳指導の重点を段階的に設定した。

各学年道徳教育年間計画（図2）については、「親切・思いやり」を重点においた各学年で目指す子どもの姿と道徳教育上の指導方針を設定し、道徳科を計画の中心に配置し、道徳科と各教科等の関連で道徳性を養うことに関わる指導の内容を整理して示した。これは、道徳科以外にどの時期にどのような指導するのか、この後述べる「わかしお道徳学習プラン」との絡みについても合わせて検討することができると考えた。

図2 各学年道徳教育年間計画（H28年度版）

② 縦割り班を核とした特別活動（道徳的実践の場）の見直し

当校では、縦割り班活動にかかわる学校行事が多い。この縦割り班活動を道徳的実践の場として見直そうと、道徳教育推進部が提案し、全校の重点活動に位置付けた。主な取組として、「縦割り班に名前を付けようプロジェクト」がある。子どもたちが主体的に募集した結果、「わかしおフレンズ」に決まった。子ども自身が縦割り班の目的や目指す班の姿について見つめ直す機会となった。また、縦割り班活動の重点内容項目に沿って、学期1回の重点行事の充実を図った。例えば、縦割り班遠足「弁天浜へGO!」では、ペア学年で「班遊び担当」「おやつ担当」等の役割を分担した。ペア学年で打ち合わせや班全体に提案する場を設定した。話し合いを重ねるごとに上学年は下学年の立場を考えた話し方や提案の仕方が身に付いてきた。下学年は相手のことを考える発言が見られるようになった。活動後の「ありがとう！メッセージ交換」では、友だちから感謝の言葉や励ましの声をもらい、自分の果たした役割や責任を実感したり、自分のよさを見付けたりする姿が見られた。また、改めて友だちの大切さに気付く記述も確認できた。

重点内容項目：B信頼、友情 B思いやり			
	縦割り班重点行事	連携する部・担当	備考
1学期	「ようこそ1年生」	児童会担当	H28年度より重点
	「弁天浜へGO!」	児童会担当	H27年度より重点
2学期	チャレンジランキングフェスティバル	児童会担当	H27年度より重点
3学期	「レッツ！ジャンプ」	体育部	H27年度より重点
	6年生を送る会	児童会担当	H28年度より重点

図3 縦割り班重点行事一覧（H27, H28）

③ 体験活動と道徳授業を関連付ける「わかしお道徳学習プラン」（別葉2）の提案

このような縦割り班活動の他に、当校では各教科をはじめ総合的な学習等、教育活動の中に多くの体験活動が散りばめられている。この体験活動と道徳教育の要である道徳授業との関連付けを計画的に構想することにした。この計画を「わかしお道徳学習プラン」（図4）と呼び、全教職員に提案と理解を求めた。このプランのポイントは2つある。1つ目は、年間をⅢ期に分け、各学級で目指す子ども像と重点内容項目を明確にしたこと。2つ目は、体験活動での子どもたちの学びと意識の流れを想定し、内容項目を意識して道徳授業との結び付き（補充・深化・統合）を図式化したこ

とである。図式化することで、どの時期に何を指導するのが明確になった。教職員は道徳教育年間計画とこの「わかしお道徳学習プラン」を活用し、道徳授業に見通しをもつことができた。

(2) 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める授業づくりにおける道徳教育推進教師の役割

① 主体的に学ぶ道徳研修の充実

要となる道徳授業の充実が道徳教育推進の鍵を握る。そのためには教師の授業力向上が重要である。道徳科の特質を知り、週1時間の道徳授業を大切に、道徳の時間は自分の心を見つめる時間であることを共有した。また、問題解決的な学習や体験的な学習、考える道徳など、教科化の流れの中で、職員の問題意識を大切にしながら、主体的な道徳科の授業実践や授業力の向上が図られるよう職員研修の充実を行った。

授業研究の出発点は、職員間における道徳授業の交換である。後に、職員研修で主に以下の2点を課題として挙げた。

- ① 今、求められている道徳科の授業について
- ② 今後、検定教科書を活用する上での道徳授業づくりの充実

特に教材（資料）を活用して行う道徳授業づくりについて学び直したいという声が多かった。そこで、筆者は後藤忠氏の道徳教育の指導法及び授業づくり学習理論⁴⁾を授業研究の基盤とした。後藤は、道徳の時間は道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力という内面的な資質を養っていく時間であると述べる。また、後藤の授業づくりは教材選択や教材分析、そして教材提示に力点を置き、教材分析表をもとに根拠をもった発問を投げ掛けることで、子どもたちを教材の主人公に自我関与させ、共感的に自分とのかかわりで考え、道徳性（まずは道徳的心情）を育てるものである。またこの学習理論は、今求められている「自己を見つめ、多面的・多角的に考える授業づくり」と重なり、授業づくりの手順が分かりやすく具体的である（図5）。

そこで、後藤氏を講師とし、職員研修で年間2回の授業づくり演習を行った。また、年7回の授業研究では、教材分析や指導案づくりの過程で後藤氏と電子メールでやりとりしながら、先行実践教材や授業技術の情報をいただいた。さらに、授業者と後藤氏との仲介役を担うことで、授業者が主体的に教材研究をできるような体制づくりを行った。

また、定期的に授業実践研修を行った。授業者が個々に授業実践を持ち寄り、子どもたちの姿を確認しながら「わかしお道徳学習プラン」と授業づくりについて協議を行った。研修を重ねるごとに授業づくりへの意識が高まった。特に、子どもの実態に合った教材選択、教材分析から具体的な発問構成を考えること、主題へのこだわり、ねらいに沿った教材の改作など、職員間の意見交換や教材研究を通して後藤の学習理論を基に当校の道徳授業のスタイルが出来上がってきた。

② 全職員でサポートする道徳授業づくり体制 一授業づくり3チームによる推進一

道徳教育の核となるのが道徳授業であることから、図1に示したように授業づくり3チームを編制した。チームには道徳推進部1名が入り、教材選択や教材分析、学習指導案づくり、検証授業、授業公開までをサポートする。意見交換しながら、授業づくりを進める中で、授業者だけではなく、他の職員の教材分析力も高まり、授業技術の向上も感じられた。また、チームの連帯感も高まった。さらに、チーム会議で挙げた授業づくりの成果と課題を道徳推進教師が取り上げ、職員研修の場で意見交換や共有を図ることで、全職員による道徳教育推進に向けての改善点や新たな手立てを見出すことができた。

(3) 家庭・地域との連携による一貫した道徳教育における道徳教育推進教師の役割

① 道徳授業参観と道徳懇談会の開催

学校と家庭、地域との連携により、実生活に即した幅広い道徳的価値を子どもたちが身に付けることができると考え

わかしお道徳学習プラン 4年1期			
自信す子どもの姿		自分のよさに気づいたり、友だちのよさを発見したりできる子	
重点的取り組み		人権性の伸長 日友誼・信頼	
プラン概観			
時期	道徳の時間 ★議題名 ★資料名	◆子どもの意識の気づき	◎教科・特別活動等・総合的な学習の時間 ◎日常生活 ◎家庭・地域との連携
4月	☆みんなで作る道徳 ☆みんなのルール 議題の導線・必勝心、礼儀 一人一人が生き生きと学校生活を送るために、ルールを考え、実行していくこととする意識を高める。	◆4年生としての意識の芽生え 「私たちにできることって何?」 「下学年とどのように関わりたいか?」 「わたしにできること?」 「友だちにできること?」	◎1週会「ようこそ1年生」 ・1年生の挨拶を考え、特別に協力してもらってうれしいイベント作りをする。 ◎体育「中学校運動会がんばろう運動」 ・学年に合わせた、遊んで楽しむ、取り合っで楽しむ、自分のために、自分のためにより良い関わり合いの仕方を考える。 ◎生活「目標達成運動」 ・学年に合わせた、遊んで楽しむ、取り合っで楽しむ、自分のために、自分のためにより良い関わり合いの仕方を考える。
5月	☆みんなで作る道徳 ☆同じ仲間だから 議題の導線・必勝心、礼儀 一人一人が生き生きと学校生活を送るために、ルールを考え、実行していくこととする意識を高める。	◆友だちとのかかわり 「どうやってかかわりたいか?」 「仲良く関わり合いたい。友だちのアイディアを大切にしよう。友だちと関わり合いたい。友だちと関わり合いたい。」	◎わかしお大運動会 ・友だちよく練習や本番での活動に盛り込まれるよう声のかけや励ましを言葉につけて考える。 ◎総合的な学習の時間「わかしお大運動会」 ・友だちよく練習や本番での活動に盛り込まれるよう声のかけや励ましを言葉につけて考える。
6月	☆みんなで作る道徳 ☆自分を十指とれば 議題の導線・必勝心、礼儀 一人一人が生き生きと学校生活を送るために、ルールを考え、実行していくこととする意識を高める。	◆自分のよさを生かして友だちと関わり合いたい。友だちと関わり合いたい。友だちと関わり合いたい。友だちと関わり合いたい。	◎生活「自分肯定運動」 ・学年に合わせた、遊んで楽しむ、取り合っで楽しむ、自分のために、自分のためにより良い関わり合いの仕方を考える。 ◎生活「自分肯定運動」 ・学年に合わせた、遊んで楽しむ、取り合っで楽しむ、自分のために、自分のためにより良い関わり合いの仕方を考える。

図4 「わかしお道徳学習プラン」(H28年度版)

手順	項目
①	“よい”教材（資料）の選択・吟味
②	主題名の決定 ※教材とねらい（道徳的価値）の整合
③	発問構成を考える教材分析（教材分析表の作成）
	ア教材の場面分け（主人公の内面）
	イ中心発問場面の設定
④	基本発問場面（2つ）の設定
	具体的な発問づくり
⑤	教材内容の「主題」に沿った学習課題を構想
⑥	「主題」に基づいた価値への導入を構想
⑦	自尊感情や自己肯定感が高まる終末の工夫
⑧	教材提示の工夫

図5 能生小の道徳科授業づくりプラン

た。そこでフリー参観日（1時間の道徳授業）と道徳授業参観日を設定した。担任は道徳授業の内容やねらいを学級便りで発信した。ある学年では、主題名を「家族のあたたかさ（C家族愛、家庭生活の充実）」として授業を行った。参観者も次第に多くなり、家族のよさを実感する参観者の姿も見られた。

道徳教育推進部（地域連携担当）が中心となった道徳授業参観後の道徳懇談会では、保護者や地域の方々と子どもの頃の道徳授業や子どもたちの道徳性等、テーマを決めずに意見交換を行った。「道徳」について考えるよい機会となった。そして改めて、子どもの道徳性の育成にかかわり、共に子どもを育てていくという意識がもてるよう啓発活動を推進するとともに、開かれた学校の雰囲気と、協力体制をつくる必要があることを実感した。

② 職員・保護者・地域一体となって道徳的視点で見つめる評価アンケートのあり方

学校教育活動の後に行う評価アンケートの改善を行った。道徳教育推進部と児童会担当や特別活動部等と連携し、まず職員の評価アンケートに改善を加えた。改善点として、運営面以外の記述について子どもたちの姿を道徳的視点で記述する項目を加えた点である。このことは教育活動の中でとらえた子どもたちの姿を道徳的価値で意味付けていくことで、教育活動の効果を考える機会となった。また、道徳科とのつながりやこれまでの子どもたちの変容を職員研修等で共有する手段にもなった。同様に、保護者や地域にも道徳的視点で記述するアンケートを配付した。保護者や地域の方々の記述を見ると、教職員が見えなかった子どもの姿を見取っている姿もあり、道徳的視点で意味付けながら具体的に評価する記述が見られた。

4 考察

(1) 道徳性を育む教育活動の見直しと道徳授業との関連付けにおける道徳教育推進教師の役割 一 体制整備一

① 推進

学校として、各学年としての重点内容項目を決め、各種計画を作成したことで学校全体あるいは各学年に教職員がどのように道徳教育に関わればよいか、具体的に何を行えばよいか、組織の機能をどのように生かせばよいか、校内組織の動きや教職員の動き、学校全体の道徳教育の流れが明らかになった。道徳教育推進教師が、各種計画のねらいと活用方法を明確に示し、研修等で提案していく取組を行うことで、各校内組織や各学年など道徳教育への取組の促進につながった。

② 調整

縦割り遠足「弁天浜へGO!」では、道徳教育推進部（体験活動担当）と児童会担当や学校行事部等が連携し、実施計画に内容項目との関連を図ったねらいの設定や具体的な取組を盛り込んだ。そうしたことで、児童会行事の取組と合わせ、道徳教育の推進について各担当や教職員に対して働きかけることができ、互いの取組のねらいも達成することができた。

③ 支援

道徳教育推進教師自ら、各学年の道徳教育年間計画や「わかしお道徳学習プラン」をふまえた計画的な道徳教育の取組や、総合的な学習と道徳科を関連させた授業実践を紹介しながら、職員らの計画づくりについてサポートを行った。少しずつ職員間で道徳科の特質が共有され、補充・深化・統合に向けた各学年の計画が具体的になったと考える。

(2) 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める道徳の授業づくりにおける道徳教育推進教師の役割 一 授業改善一

① 推進

体験活動が実に多く散りばめられている当校の実情を踏まえ、体験活動と道徳授業との関連を計画に位置付けたことで、職員がクラスの重点内容項目に沿ってどの時期にどんな教材を用いてどのような指導を行えばよいか、見通してもって道徳の授業づくりを進めることができた。また、読み物資料の中の主人公に自我関与させながら、多面的・多角的に自分とのかかわりで考えを深める学習に絞ったこと、後藤氏の学習理論をベースに当校の道徳授業づくりの手順を整理して示したことで、授業改善に向けて職員一人一人が主体的に教材研究を試み、実践意欲も高まった。

② 調整

初めから道徳科の有識者を招聘して授業研究を進めるのではなく、職員間で授業を見せ合うことから道徳授業についての課題を整理し、職員のニーズに沿った講師とつながり、授業技術や情報をいただいたことで、職員の授業づくりや道徳教育推進への実践意欲がより高まった。職員間の授業公開やその後の意見交換の場、そして講師と個々の職員とのつながりを道徳教育推進教師がうまく調整することで、授業改善に向けての雰囲気や環境が整った。

③ 支援

文部科学省や県教委、市教委主催の道徳教育講座を受講した際には、授業改善のポイントや実践事例を伝達する場を設けたり、資料や研推だよりを配付したりしながら授業改善への支援を行った。また、道徳教育推進部が授業づくりチームの検討に関わり、授業づくりにおける悩みや不安へのサポートをした。このような取組の結果、職員の実感を

もった授業実践が研修の場で報告され、職員一人一人が授業改善に向けた課題意識をもち、積極的に道徳授業を行おうとする姿勢が見られた。

(3) 家庭・地域との連携による一貫した道徳教育における道徳教育推進教師の役割 一連携一

① 推進

フリー参観日の道徳授業、道徳授業参観日を設定した。また、事前の学校便りや学級便りでそのねらいを伝えることで、保護者や地域の方々にも道徳教育の必要性を認識していただくことができた。教務主任と地域連携担当との連携した道徳懇談会は学校と家庭、地域が「道徳」について語り合い、連携した道徳教育を推進していくためのよい意見交換の場となった。

② 調整

運動会などの折に家庭や地域の方々に配布している評価アンケートの改善は、道徳的視点で子どもの姿を振り返り、成長や変容を互いに共有できる有効な手立てとなった。それぞれの立場でとらえた子どもの成長を学校が把握・整理し、PTAの会合や学校便りや学級便り等でフィードバックすることで、家庭や地域とつながることができた。

③ 支援

学校に来校する保護者や地域の方々に道徳教育推進に向けた取組への理解を得たり、具体的な子どもたちの姿を発信したりするために、廊下の掲示物など環境整備に努めた。直接的な効果について言及しないが、これら掲示板は、子どもたちの姿を道徳的視点で見取るための保護者や地域の方たちの手立てや材料に手掛かりとなったと考えている。

5 成果と課題

検定教科書を活用する時代を迎える。教師は教科書（教材）を必ず活用して道徳の時間を展開する。当校の道徳教育推進の出発点の一つは、「核となるのは道徳授業。誰もが教科書を活用し、質の高い授業を行うにはどうするべきか。」であった。つまり、キャリアの違う各教師の道徳科の授業力向上が一番の課題であった。道徳教育推進教師として多方面に渡り、具体的な取組を行った。その一番の成果は、筆者を含めた教職員の授業づくりへの意識の高まりである。職員室では、道徳科の副読本を2、3冊広げてメモを取る若手教員や、教材分析や発問づくりについて質問するベテラン教員など、意欲的に教材研究に取り組む姿が多い。子どもたちの道徳性を高めようとする教師の思いが授業準備を通して伝わってくる。道徳授業はこれまで各教師の力量や経験に任せられ、学校やチームとして取り組む面で希薄さを感じていた。今回、チームとして授業づくりを進める体制など、学校全体で道徳教育を推進する雰囲気が出来上がった。道徳教育推進教師一人ですることができることは限られる。しかし、その役割を具体的に理解することで、学校全体をチームとして道徳教育の推進へと関わらせることができた。

今後の課題としては、本校の授業づくりプランを確立させたい。そのためにも、全職員で授業実践の蓄積と共有を図ることはもちろん、道徳教育推進教師として自ら継続した道徳教育の推進と調整・支援を行い、授業実践を蓄積していきたい。

〈註〉

- 1) 中央教育審議会「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」2015
- 2) 宮地真人「道徳教育推進体制の改善・充実－道徳教育推進教師がかかわる道徳教育マネジメントの推進－」、『平成22年度 長期研修員の研究報告書』2011 群馬県総合教育センター
- 3) 文部科学省『小学校学習指導要領解説（道徳編）』平成20年
- 4) 後藤忠「道徳科学習指導案書き方教室」2015 明治図書

〈引用文献及び参考文献〉

- 教育課程部会 道徳教育専門部会「道徳教育に係る教員の指導力向上方策について（第7回）配付資料」2014
 道徳教育の充実に関する懇談会「今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）」2014
 文部科学省教科調査官 赤堀博行「平成27年度道徳教育指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）講師資料」2015
 文部科学省教科調査官 澤田浩一「平成27年度道徳教育指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）講師資料」2015
 文部科学省教育課程課 編『初等教育資料9月号臨時増刊』2015 東洋館出版
 文部科学省教科調査官 赤堀博行「新潟県立教育センター 豊かな心をはぐくむ道徳教育講座 講師資料」2016
 大蔵純子、柳沼良太「道徳教育推進教師のあり方と開発実践」、『岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究 第15巻』2013
 大蔵純子、柳沼良太「道徳教育推進教師による授業サポートのあり方」、『岐阜大学教育学部研究報告 人文科学 第62巻』2013